

Berlin Report

Juni 2024

CONTENTS

- * Project 1: The Hoxton, Charlottenburg
- * Project 2: The Hoxton, Vienna

1. The Hoxton, Charlottenburg

Project Overview

ロンドン発のホテルチェーン「The Hoxton」がベルリンに進出し、話題を呼んでいる。それぞれに個性のあるベルリンの地区の中で、拠点に選ばれたのはラグジュアリーなショッピングストリートにも程近い、Charlottenburg 地区だ。ベルリンが最も華やかだった 1920 年代をイメージした、アール・デコとアール・ヌーヴォーの要素を取り入れたインテリア。北インド料理のレストランとティーハウス「House of Tandoor」は、1920 年代のインドの宮殿風に、モザイクタイルを印象的に使っている。

ホテルを訪れた客は、まず背の高いグリーンを多く配置した、広々としたラウンジスペースに迎えられる。一般的なホテルのように中央の入り口正面にレセプションを配するのではなく、まずは街の一部のような空間で出迎えてくつろいでもらう。ホテル感を極力なくするというのが、全ての The Hoxton に共通したコンセプトだ。

ラウンジ奥はモザイクタイルや、アール・デコ風の大きな照明が印象的なカフェバーになっている。落ち着いたダークトーンの家具が置かれているが、高い天井に大きな窓、シーリングファンがどこかアジアを感じさせる。

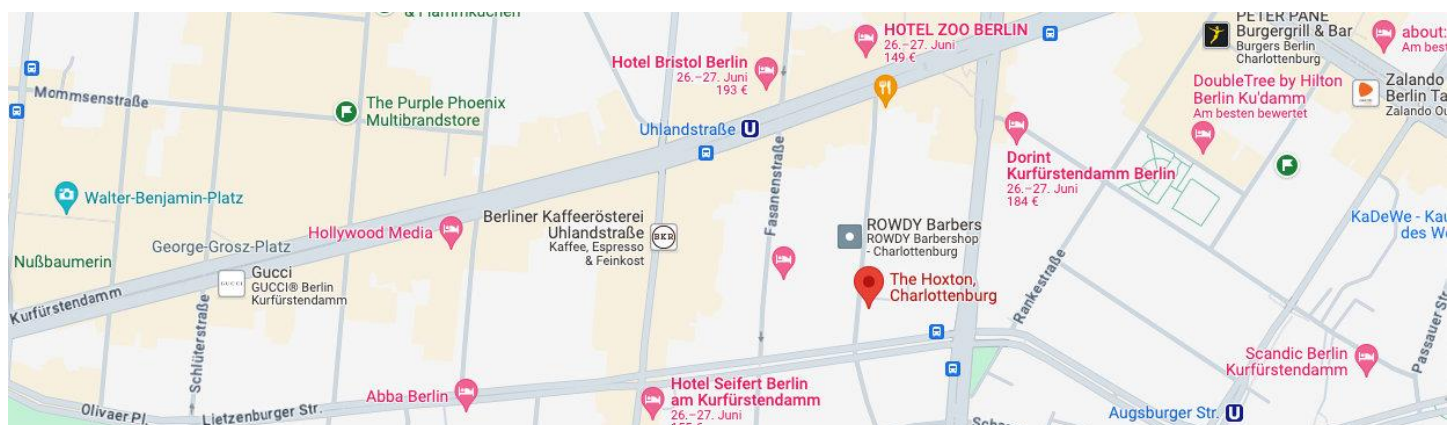
House of Tandoor も、アール・ヌーヴォー風の照明にモザイクタイルの床、ガーデンstuhl風の椅子と大きなベンチ、インド風のアートオブジェをそこここに飾った。

234 の客室は、ベルリン、特に Charlottenburg 地区の隣接するアパートからインスピレーションを得たシックなインテリア。フローリングは落ち着いた濃色でこの地区に多いヘリンボーン、壁はグリーングレーに塗った。ベッドのヘッドボードの曲線は貝殻をイメージしたもので、カーペットやカーテンの柄にも繰り返し使われている。部屋で落ち着いたら、階下のカフェへ。ゆったりと弧を描く空間の床にも貝殻のモチーフが採用されている。同じ曲線を描く大理石のカウンターで街を眺めつつランチを楽しむ、週末のシティステイにもぴったりのホテルだ。

Project Details

1. Client: The Hoxton Berlin
2. Type of Business: Hotel
3. Open Date: 08/05/2023
4. Location: Meinekestraße 18-19, 10719 Berlin
5. Size: 234 rooms
6. Interior: AIME Studios
7. Website: <https://thehoxton.com/charlottenburg/>

Location





上：正面関を入った奥にある、ラウンジバー。グリーンを多く配して蒸し暑いアジアの空気感すら感じるようだ。

下：Cosy Neighbourhood カテゴリーの部屋。ヴィンテージ風の家具に天井の配管などは隠さずに見せるのがベルリンスタイル。



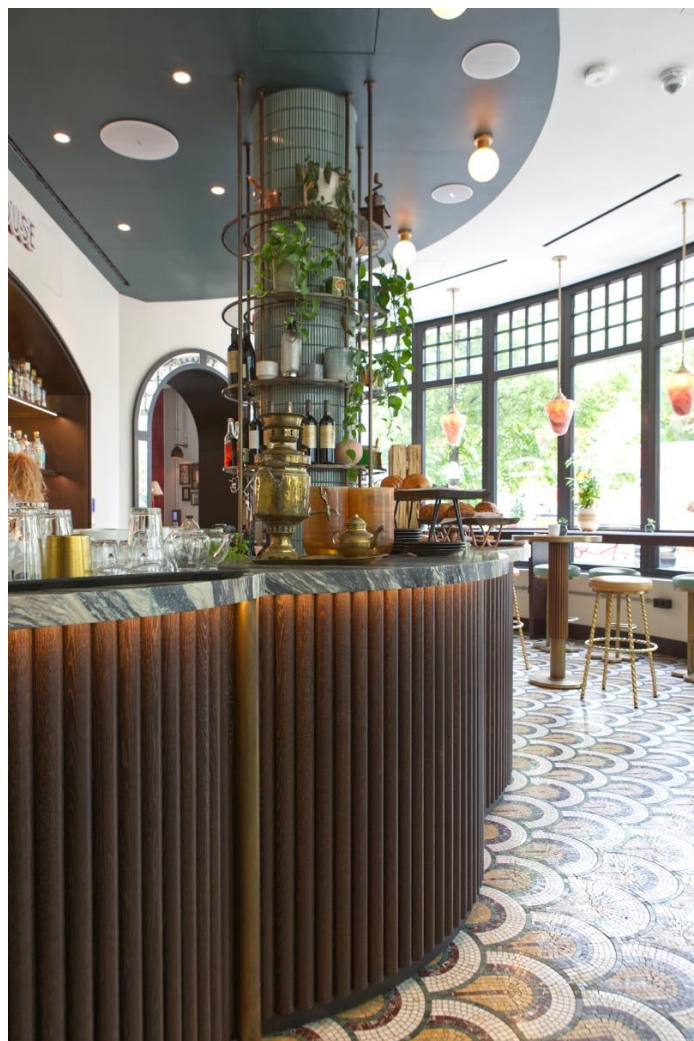


上：北インド料理&ティーハウス。インドのリゾート x 1920年代のヨーロッパ風インテリアのミックス。下：古い蓄音機は、インドのジャズ時代を彷彿とさせるもので、このオブジェでも、アジアとヨーロッパとのミックスを表現しているのだそう。





上：ホテル正面入り口は、まずラウンジ空間になっている。下右：朝食ルームでもあるレストランにつながるティールーム空間。床のモザイクが、部屋のインテリアにもある貝殻柄と呼応している。下左：広々としたラウンジの一角にはヴィンテージ風の家具が並ぶ。



2. The Hoxton, Vienna

Project Overview

同じく「The Hoxton」が、2024 年 5 月オープンしたのが、ウィーンだ。高級エリア 1 区に 1950 年代に建てられた商工会議所ビルを生かして改装した物件。ミッドセンチュリーとウィーン工房（Wiener Werkstätte）にインスパイアされたデザインを散りばめた、この街らしいホテルに仕上がっている。

ウィーンの顔とも言える、旧市街をぐるりと囲むリング通り。The Hoxton Vienna の建物は、第二次世界大戦後の復興期に、リング通りの数々のビルを手がけ「第二リング通り」様式を形成したことで知られる建築家、Carl Appel の設計によるものである。インテリアを担当した AIME Studios は、Appel の建築をいくつも訪ねて研究し、ウィーン 19 世紀末～に盛り上がった芸術と工芸運動であるウィーン工房と、戦後モダニズム、建物が作られた 1950 年代を取り入れて改装計画を進めたという。

ベルリンと同じく、正面には大きなラウンジ空間が広がる。吹き抜けの大きなロビーは、商工会議所ビルだった時代のファサードを砕いてタイルとして埋め込み、金属の柱などのディティールもそのままに生かした。家具は建物が作られた時代のミッドセンチュリーものだ。196 の客室には、カーテンやクッションなどのファブリックにウィーン工房を思わせる模様を取り入れた。家具は 1950 年代風で統一。最上階にはウィーンの街が一望できるテラスがあるバー、屋外プールも。重厚な歴史だけではないウィーンの顔が堪能できる、最新の注目アドレスだ

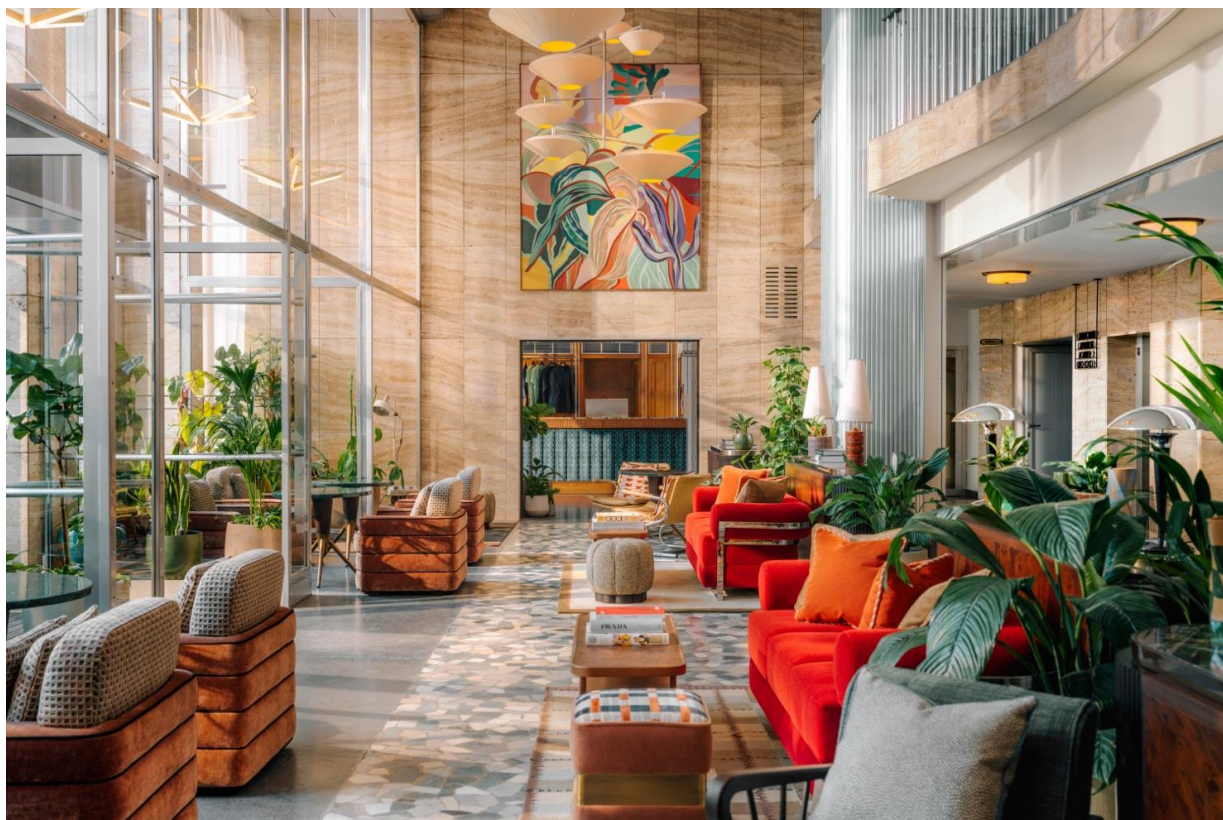
Project Details

1. Client: The Hoxton Vienna
2. Type of Business: Hotel
3. Open Date: 23/05/2024
4. Location: Rudolf-Sallinger-Platz 1, 1030 Vienna
5. Size: 196 rooms
6. Interior: AIME Studios
7. Website: <https://thehoxton.com/vienna/>

Photos © Julius Hirtzberger

Location





上：商工会議所ビル時代を彷彿とさせるラウンジは、レトロで居心地が良い。

下：客室。ウィーン工房風の細かい模様をファブリックに。家具のデザイン自体は商工会議所が作られた、ミッドセンチュリー。照明はウィーンに多いアール・デコ。





上：ラウンジ横には既存のメタリックな建材を生かした、アメリカンダイナー風のカフェバーを併設。

下：最上階のラウンジバー。

